

平成 27 年度例題：免許資格職／専門（保健師）

〔例題 1〕 風しんとその予防接種に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 2 歳児及び小学校入学前 1 年間の幼児は、風しんの定期予防接種対象者であり、全ての市町村において無料で接種を受けられる。
2. 風しんの予防接種後、それが生ワクチンである場合には 2 週間、不活化ワクチンである場合には 3 日間、副反応の出現に気をつける必要がある。
3. 風しんワクチンは、他のワクチンと混合して使用すると副反応が起こる可能性が高まるため、水痘ワクチンなどと同時に接種しない。
4. 先天性風しん症候群の予防のため、成人女性が風しんの予防接種を受けることがあるが、この場合、妊娠初期に予防接種を行うこととなっている。
5. 平成 24 年以降の風しんの流行に伴い、妊婦を守る観点から、妊婦の夫も任意での予防接種を受けることを検討するよう呼び掛けられている。

〔正答 5〕

〔例題2〕図は、120人を対象としたある疾患についてのスクリーニング検査の結果と確定診断の結果を示したものである。これに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。なお、割り切れない場合には、小数第1位を四捨五入して値を求めるものとする。

(単位：人)

		確定診断		計
		疾患あり	疾患なし	
スクリーニング検査	陽性	20	2	22
	陰性	4	94	98
計		24	96	120

1. 感度は98%である。
2. 特異度は83%である。
3. 陽性反応適中度は2%である。
4. 偽陰性率は17%である。
5. 偽陽性率は91%である。

〔正答4〕

〔例題3〕産科医療補償制度に関する次の文中のア～ウに入るものがいずれも妥当なのはどれか。

産科医療補償制度は、平成21年より、安心して産科医療を受けられる環境整備の一環として、分娩に関連して発症した〔ア〕の子どもとその家族の経済的負担を速やかに補償すること等を目的として実施されている。

この制度に加入している〔イ〕でお産をすると、万一のときに補償の対象となる。

この制度の申請期間は児の満〔ウ〕の誕生日までであり、この制度を知らな
いまま申請期間が過ぎてしまうと、補償対象にもかかわらず補償を受けられない
という事態が生じるおそれがある。

	ア	イ	ウ
1. 重度脳性麻痺	都道府県	10歳	
2. 重度脳性麻痺	分娩機関	5歳	
3. 重度脳性麻痺	分娩機関	10歳	
4. 先天性代謝異常	都道府県	5歳	
5. 先天性代謝異常	分娩機関	10歳	

〔正答2〕